

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和8年度・第4回）議事概要

日時 令和8年（2026年）7月8日（水）14:00～16:00

場所 宝塚市役所 第2庁舎 会議室A・B

出席者

<まちづくり協議会>

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	井手 義明会長	●	
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長	●	
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	
まちづくり協議会コミュニティ末広	溝本 直人代表	●	
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	坂本 敏会長	●	
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	
宝塚市すみれガ丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表	●	
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 毅会長	●	
売布小学校区まちづくり協議会	菅野 伸和会長	●	
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	末永 一樹代表	●	
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長	●	
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	

<その他>

市民交流部 古南部長、新城次長

市民協働推進課 和田係長、押川職員他

交通政策課 西岡課長、小薮係長、佐伯職員

公園河川課 雑賀課長、薮内係長、山下職員

社会教育部 前田次長

スポーツ振興課 赤松課長、森脇係長

総合防災課 出水係長、村尾職員

手をつなぐ育成会 今北氏、小森氏

宝塚市社会福祉協議会 地区担当支援課 前薮課長

宝塚NPOセンター 平岩氏

議事概要

1. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和8年度・第3回）議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、修正後、ホームページへ公開することが承認された。

2. 代表者交流会ワークショップについて

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

3. まちづくり協議会の情報発信について

（1）ポータルサイトブログの閲覧状況について

（2）お祭りをブックにまち協ブログを知ってもらおう作戦

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 広報たからづか8月号にまち協ブログのPRを掲載とあるが、日時及び場所、祭りの内容を伝えたら、広報たからづかに載せてくださるということか。

イ （市民協働推進課）各地域のお祭りの情報を個別に掲載するのではなく、地域のお祭り情報はまち協ブログを見たら載っているかもしれないという案内とまちづくり協議会ポータルサイトのQRコードを載せるので、QRコードから各まちづくり協議会のブログに飛んでいただき、関心がある地域のブログを見て、お祭りの情報を確認いただくというご案内の仕方になる。

ウ ということは、各まち協でお祭りの内容を宣伝としてブログに載せておくこと前提になるということか。

エ （市民協働推進課）そうである。ぜひお祭りの情報をブログに載せていただきたいというご依頼である。

4. 宝塚市シェアサイクル事業について（交通政策課）

交通政策課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア この事業の目的は何か。仁川交番周辺の自転車盗難が他のところに比べてずっと多く、夜の帰宅時に自転車をちょっと持って帰ろうと考える人がいる。それが、果たしてシェアサイクル事業で減っていくのかどうか知りたい。また、朝は人が立っていても、阪急仁川駅から関西学院大学に行く学生と通勤する車等ですごく混雑している。健康増進やまちの活性化だけでなく、ずばりどういったところに狙いを付けて、どのようなPRをされているのかを、もう少し本音の話を聞かせてもらえないか。

イ （交通政策課）ここに記載しているとおり、まちの活性化と健康増進、鉄道やバス等の補完になるような移動手段が目的である。シェアサイクルを使って駅やバス停近くに行き、公共交通機関の利用等につながれば良いと思っている。PRに関しては、市報や市のホームページ等で周知しているが、周知に関して足りていないというような広聴の意見をいただいているので、ぜひ皆様からも地域に周知していただけるとありがたい。

ウ もし宝塚南口駅にシェアサイクルがあったら、すごく便利だと感じており、例えば清荒

神駅等サイクルポートがないところがあるが、今後シェアサイクルの設置を検討していくのか、それともこの 5 年間はとりあえず設置しないのか伺いたい。それから、このデータの中で、宝塚市内だけではなく他市から来るというのが結構あるが、サイクルポートがどこにどれだけあるというのは、実際にシェアサイクルの会員になり、サイトを見ないと分からないのか。

エ （交通政策課）駅のサイクルポートの設置に関しては、宝塚南口駅などいくつか設置されていないところがあるが、駅の近隣のポートは利用者が多いというデータもあるので、市としては今後設置していきたいと思っている。現在、阪急の駅前に設置できているところは、阪急電鉄の敷地でスペースがあるところである。宝塚南口駅に関してはそのスペースがないが、近くの公有地で設置できるところがないか検討していきたいと思っている。他市の設置状況に関しては、市のホームページには掲載しておらず、Open Street 株式会社のサイト等でご確認いただきたい。

オ 駅前に割と多く設置しているが、山の中腹あたりに設置していただける可能性はあるのか。

カ （交通政策課）この事業は冒頭にご説明したとおり、Open Street 株式会社と協議しながら設置場所について検討している。また、基本的には公共交通機関の補完として考えている。山手地域はバスの利用が多く、シェアサイクルを設置してしまうことによって、公共交通機関の利用者が減ってしまうことは、我々としては避けたいと思っている。あくまで公共交通機関の補完事業として、Open Street 株式会社と利用者が見込めるかというところも考慮しながら設置場所については検討していきたい。ただし、もし地域で具体的な設置の要望があるのであれば、ぜひ我々に伝えていただければと思う。

キ シェアサイクルに関して、利用の年齢別分析はしているのか。先ほども言われたように、この事業の目的は公共交通機関の補完で、今一番求められているのは、やはり交通弱者が交通の足をどう確保するかである。シェアサイクルを本当にその交通弱者である高齢者が使っているのかということも見なければいけない。交通弱者のことに対して今後どのように進めていこうと考えているか聞かせて欲しい。

ク （交通政策課）Open Street 株式会社のシェアサイクルを使うときには利用者登録が必要だが、そのときに生年月日を入力しないため、データとして年齢は集計できていない。しかし、Open Street 株式会社のシステムを通して、利用者に個別アンケートを取れるので、そういったところでご助言いただいたような年齢や利用実態というのを分析できるよう協議しながら実施していきたい。

ケ 始めたばかりということで、まだまだこれから検討の余地があると思うが、先ほど質問があったように、目的があまりわからないというのももちろんあるが、これはどんな人がどこで使っているのか。山本新池公園の近くのサイクルポートにはいつも 5 台並んでおり、資料を見たら 30 日で 15 回利用されているというデータがあり、2 日に 1 回利用されているということになる。それで山本新池公園から借りた人が乗って行って、また帰ってきているのか。もう一つはサイクルポートには屋根がないが、自転車は 5 年間持つのか。自転車は 3 年ぐらい外に放置すると、特に座るところが老朽化してくる。初期費用にどれぐらいかけているのか分からないが、タイムズカーシェアが今非常にヒットしており、その発想でこれを始めたのかと考えるが、自転車の耐久性とどのような人が利

用されているのかを教えてください。

- コ （交通政策課）どんな人が使っているのかというと、固定されているわけではないと思う。通勤・通学・買い物等様々な用途で使われていると思う。先ほど分析という話もあったが、どういった方が使っているか、どういった人を今後さらにターゲットにしていかなければいけないのかというのは、アンケート等を通して、できるだけ分析していきたい。老朽化に関しては、Open Street 株式会社の費用でこの事業は行っており、もし地域の近くのシェアサイクルポートの自転車が老朽化していたり、故障が見られるようであれば、市や Open Street 株式会社に連絡していただければ、交換等の対応をしていただけると考えている。
- サ 時間別利用回数を見ると、「0 分から 15 分まで」が 29%、それから 30 分以内の利用が 36% で、どういう人が利用しているのか。例えば、阪急逆瀬川駅から宝塚市役所までを市役所職員が通勤のために毎日使っているのかと考えるが、想像ができない。
- シ （交通政策課）宝塚市内では始まったばかりなので、どういった利用がされているのかをこの場で詳細をご説明できないが、一般的にシェアサイクルというのは、進んでいけば市内にシェアサイクルポートがたくさん増えていき、シェアサイクルポートで借りて、別のシェアサイクルポートで返すことができるため、利用時間というのは短くなっていく性質がある。現状シェアサイクルポートは市内に少ないので、一回の利用時間が長い。シェアサイクルの一回の利用時間を減らせるように、市内のポート数を増やしていくというのが、当面の間、目指していくところと考えている。

5. 公園区計画作成に関する先行着手地区の進捗報告及び令和 8～9 年度実施予定案の募集について（公園河川課）

公園河川課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア 手を挙げたとき、国の補助金や助成金が使えなかったり、少なかったりしたら、その計画部分を縮小するということか。
- イ （公園河川課）おっしゃるとおり、国の補助金を積極的に要求しているところだが、いくら付くかは今の段階で保証できない。仮に全額付かなかったとしても、市直営ではやりたいと考えている。しかし、対応できる地区数に限度があるため、実施地区数については予算の状況次第で 5 地区を上限としてまた検討させていただきたい。
- ウ それは計画をするにあたって、最大でどれくらいの金額が付くのか。年々工事費単価が上がっているため流動的になるのか。
- エ （公園河川課）人件費の高騰により委託業務の費用も上がっているもので、そういうことを想定した上で取った見積り等を参考に費用は考えている。
- オ 理想と現実が両方並行してあるような感じに聞こえており、例えば、この計画が令和 9 年度の 3 月になったとしても、公園が実際にその形になるのはいつか分らないと認識していたらいいか。
- カ （公園河川課）それも申し訳ないが、予算次第としか言いようがないところである。しかし、例えば今行っている先行着手地区の 3 地区であれば、長尾と宝塚は今年度中に計画策定し、それに伴う取り組みは来年度にしたいと考えており、予算要求などに努めてい

るが、具体的なスケジュールは今のところ見通せない。

キ 公園の工事の規模等にもよると思うが、どの公園も大体同じ予算でやるという考えか。

ク (公園河川課) 公園区計画をこれから作るころなので、申し上げているとおり、どんな内容になるかも分からない。お金はある程度、できた計画に基づいての要求になるため、今の段階では何とも言いようがない。

ケ ゆずり葉緑地という震災の慰霊碑もある公園について、個別にその自治会から整備計画を出していると思う。今回、せっかくだから応募させていただくが、ゆずり葉緑地公園の整備計画も参考にさせていただけるのか。

コ (公園河川課) もちろん、そのような整備計画などがあり、地域の意向がすでにまとまっているのであれば、そういった情報を活用した上で検討していきたい

サ。

6. 第22回宝塚ハーフマラソン大会の従事ボランティアの依頼について(スポーツ振興課)

スポーツ振興課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

7. 総合防災課からのお知らせ(総合防災課)

(1) 地域防災力強化訓練について

(2) 学校受水槽応急給水設備訓練について

総合防災課より、(1)～(2)について、配布資料に基づき説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 今日の午前中に教頭先生と受水槽の設備を見たが、受水槽がある場所はスペースがあまり広くない。受水槽からどれぐらいの距離まで引っ張ることができるのか。

イ (総合防災課) 10mのホースを標準装備として置いている。しかし、学校によっては給水するスペースまで10mでは足りない場合もあり、それを訓練などを実施することで確認したいと考えている。実際に昨年度、宝塚小学校で訓練した際に、少し短いということが判明し、12mのホースに交換させていただいた。そういったことも訓練してみないと分からないので、できればこの訓練を組み込んでいただければ助かる。

ウ 受水槽の場所は変わらないのか。

エ (総合防災課) 受水槽の場所は変えられない。ホースをあまり長くすると水圧が弱くなるので、基本的には10mのホースを置いている。

8. 地域ごとのまちづくり計画

(1) 地域ごとのまちづくり計画の「対話」「進捗管理」の仕組みにかかるアンケート(令和7年度実施)結果共有

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

9. 市民協働推進課からのお知らせ

(1) 令和9年度コミュニティ助成事業の募集(事前周知)

(2) 協働の事例集～一緒につくる未来のかたち～チラシ完成のお知らせ

- (3) 市民と市長の対話ひろば（7月）の開催について（市民相談課）
 - (4) ゲートキーパー養成講座（8/31）のご案内（障害福祉課）
 - (5) （※定期周知）暮らしとお金に関する勉強会・イベントを開催しませんか？～宝塚市との連携協定の締結を受けて～（メットライフ生命）
- 市民協働推進課より、(1)～(5)について、配布資料に基づいて説明があった。

10. HA・NA・SOのご紹介(手をつなぐ育成会)

手をつなぐ育成会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア （市民協働推進課）手をつなぐ育成会がどのような法人なのかということと、障碍にはいろいろあると思うが、どのような障碍のある方のご家族についてか教えてほしい。また、子どものこともそうだが、例えば知的障碍のあるご家族や、子どもでなくても大人の方の親御さんはご高齢の方もいらっしゃると思うが、そういった方の相談に乗ったりもされているのかどうかなど、そのあたりも聞かせていただけないか。
- イ （手をつなぐ育成会）宝塚市手をつなぐ育成会というのは、知的や発達障碍のある子どもを持つ親の会で、創立50年を超えている。相談事業であったり、研修事業などを行っている。なぜこのようなことを始めたかということ、現在市内の小中学校の支援学級在籍の児童数が1,000人を超えるような状況になっているが、当会の会員は減少傾向にある。そのため、会員の悩み事やご相談事を随時受けることができるけれども、市内で障碍がある子どもの親御さんたちがどのようなところで悩み事を相談したり、困ったことを解消しているのかと考えると、相談したいと思っても相談に行ったり、誰に打ち明けたら良いのだろうと困っていらっしゃる方もいるのではないかとということで、こちらから相談を待っているよりも、地域に出向いていったら、もしかしたら来てくれるかもしれないという思いから始めた。会員は、未就学児から私たちよりも年上のお子さんを持つ保護者の方や、ご本人たちもおられるので、多岐にわたって相談を受けることができ、私たちの中で解消できなくても、先輩の助言を仰いだり、深刻な相談であれば各関係機関につなぐことはできると思っている。
- ウ 以前から思っているが、地域として障碍を抱える家庭の支援をできないのか。もっと地域に出向いて行って、当事者の方々と地域とが話す機会を増やすことによって、地域の理解が深まり、かつその中での支援をもう少しできると感じているがどう思うか。
- エ （手をつなぐ育成会）私たちも、災害のことも含めて地域とつながっていくことはすごく大事なことだと思っている。しかし、なかなか外に出たがらない方もいらっしゃる、会員の若いお母さん方には、防災訓練等があれば出て、自分の子どものことを伝えるよう言っており、見てもらわないとやはり分からないというところもあるので、どんどんつながっていったら欲しいと思っている。中には1回頑張っただけで地域に行っただけで、嫌な思いをしたということもあるので、私たちが間にワンクッション入ることによって、地域とつながることもできると思い、このような活動をさせていただいている。
- オ 今おっしゃったように、その当事者が直接地域に行くのはなかなか難しいと思うので、手をつなぐ育成会の方々がワンクッション間に入ることによって、次からはつなぎ役がいなくても行ける可能性も出てくると思う。また、嫌な思いをしたり、もう行きたくない

ということがあったら、逆に地域側が知っておかないと、失礼な対応をしてしまうこともあるから、啓発活動も必要だと思うし、その点では協力できるところは協力したい。

カ （手をつなぐ育成会）「HA・NA・SO」という名前ではないが、今、西谷で「チャレンジ・ザ・ミーティング」というのを開催している。初めの1年間は誰も来なかったが、そのうち3、4人とか、地域の社会福祉協議会の方や相談事業者の方も一緒に来て、いろいろな話をしたり、今悩んでいることをアドバイスしたり、つながっていった良い感じになってきている。自分の子が障碍だと思われるのが嫌という考え方もあり、あえて違う地域に行くということもあつたりもするので、いろいろな地域でそれぞれさせていただけたらと思っている。連絡先は手をつなぐ育成会のホームページに載っているので、ご連絡いただけたらいつでもお伺いしたり、ご連絡させていただきたい。

地域の方や障碍がある子どもを持つ保護者に向けて「HA・NA・SO」という事業をさせていただいているが、地域の障碍理解というところでは、啓発隊、宝塚すみれ隊での体験を通して障碍のことを理解していただくという活動も行っているので、各まちづくり協議会から呼びいただき、開催させていただいたこともあるので、またよろしければそのようなものもご利用いただけたらと思う。

また、必ずこれを利用したからといって、会員に勧誘するようなことは絶対はない。皆様いろいろなお話を気軽にさせていただき、少しでも悩んでいることを軽減させていただき、あくまでも皆様のお役に立てればと思って活動している。

11. 宝塚NPOセンターからのお知らせ

- (1) ひょうごアドプトについて
- (2) 宝塚市就労チャレンジプログラムについて

宝塚NPOセンターより、(1)～(2)について、配布資料に基づいて説明があった。

12. 社会福祉協議会からのお知らせ

- (1) クールシェアたからづか 2026 について
- (2) 第8次地域福祉推進計画策定に係るアンケート調査のお願いについて

社会福祉協議会より、(1)～(2)について、配布資料に基づいて説明があった。

13. その他

- (1) まちづくり協議会チラシ等の周知方法の集計結果について

先月、宝塚小学校区まちづくり協議会喜多会長から依頼があった件について、集計結果を共有した。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア まちづくり協議会広報紙について、まちづくり協議会による全戸配布というのが、12のまちづくり協議会で行っておられるが、この方法について聞きたい。業者を使っておられるまちづくり協議会は手を挙げて欲しい。(挙手したまちづくり協議会はなし。)ということは、まちづくり協議会のスタッフで全戸配布されていると理解してよろしいか。

イ そうである。

ウ (市民協働推進課) その下に市広報紙と併配による全戸配布が4つあり、これがおそらく業者を使っているまちづくり協議会だと思う。宝塚小学校区まちづくり協議会もこの

4つのうちの1つに入ると思うが、私が知っている中でも他のまちづくり協議会でも行っているところがあると把握している。アンケート結果からは、この4つのまちづくり協議会がおそらく広報たからづかと併配しており、まちづくり協議会の広報誌以外に併配することはできない。もしかしたらほかに業者を使って配布しているところがあるのかもしれないが、おそらく広報たからづかの併配で業者を利用しているところがほとんどだと思う。

エ 市の広報紙との併配による全戸配布というのをやっておられるということか。

オ (市民協働推進課) このアンケートの詳細を見ていただくと、市広報誌との併配による全戸配布は一番右から2番目で、丸がついているまちづくり協議会については、市広報紙との併配を使っているまちづくり協議会になっている。まず今のご質問の趣旨は、市広報紙と併配しているのはこの4つのまちづくり協議会で、それ以外に、先ほど業者を使っているところがあるかというご質問だったかと思う。その業者の中に市広報紙との併配も含まれているだろうというところで、補足で発言をさせていただいている。

カ 市の広報紙と併配していただくと、お金がかからないのか。

キ (市民協働推進課) お金はかかっている。市広報誌と併配ができる制度があり、まちづくり協議会の方から業者にお金を払っていただいたら、業者が市広報誌と一緒に併配している。

ク いくらかかるのか。

ケ (市民協働推進課) それはまちづくり協議会によって、部数や地形等含めて異なると思う。金額については、該当のまちづくり協議会の方で覚えていらっしゃる、言っていただけたら助かる。

コ 他所は知らないが、うちは1部6円60銭かかっている。去年は5円50銭で1円上がった。来年は7円70銭になるかもしれない。

サ 1年分でその値段か。

シ その都度支払っているので高い。1回で1万8000部発行しているため、何万円にも、何十万円にもなる。

ス 業者にお金を払って全戸配布しているのは、宝塚小学校区だけか。あとはお金を払って市広報誌と併配しているということか。

セ (市民協働推進課) 丸を付けている4つのところはそうである。

ソ 分かった。何とか多くの人にさまざまなイベントに参加していただきたいと思っているが、意外なところで少なかったり、多かったりしているので、これを参考にまた頑張らせていただく。ありがとうございました。

(2) まちづくり協議会代表者交流会の在り方について

ア この交流会のあり方に関して、もう少し情報交換の時間を取れないかと考えている。以前からいろいろな課題を出しているが、それに対して皆様の意見を踏まえながら、行政として改善すべきところもあると思う。今日も1つ申し上げると、先ほど市民と市長の対話ひろばの案内があったが、直近だと次の土曜日で、各まちづくり協議会の定例会の方が後にある場合だと、なかなか周知が出来ない。多くの人に参加してほしいとのことであれば、少なくとも1か月前には周知してほしい。そういったことも含めて、今後の

まちづくり協議会のあり方や各まちづくり協議会でどんなことをしているかを情報交換できる時間を取れないかと思うがどうか。

- イ （市民協働推進課） 市民と市長の対話ひろばの開催時期は4月、5月、7月、8月、11月、1月、2月の年7か月で月ごとに同じテーマで4回話す。7月は、シビックゾーンという市役所の周辺の公共施設を考えようというテーマである。周知として、この代表者交流会の場を使わせていただき、チラシなどを配らせていただいているが、周知する期間が短く、定例会が良いタイミングであるかどうか分からないし、あったとしても見ていただくと何回か終わっていたり、予定が詰まってしまっているというところで、チラシを早く配ってもらえたら協力できるというご意見かと思う。全くそのとおりだと思っているが、チラシを早く配れるのかというと、今なかなかできていない状況である。市の都合で本当に申し訳ないが、市の重要な施策や課題について毎月テーマ設定をして意見をいただきたく、対話ひろばを設定しているが、どのようなテーマで話していくのか、タイミングを考えてテーマ設定をしており、今ぎりぎりまでテーマ設定にお時間をいただいている流れになる。例えば7月の場合は、今度の土曜日が初回で、今日チラシをお配りするタイミングになっている。このテーマを決めるのを少し早くし、なるべくチラシを早くお配りしたいという思いはあるが、テーマ設定をどうするのかというところとのバランスを取りながら設定させていただいているので、今現状ぎりぎりになっている。課題としては認識しておるので、なるべく早くチラシを作れたらと思うが、どうしてもぎりぎりのタイミングが続くこともあるかと思う。皆様に周知をお願いしているが、広報たからづかやSNSなどでも行っており、できる範囲での周知のご協力をお願いしたい。

また、もう少し意見交換できる時間を設けて欲しいというご意見について、代表者交流会は2時間で設定させていただき、今回も議題が盛り沢山になっていた。それぞれのテーマについては、例えば今日は公園区計画についてご説明し、質疑応答の時間をきっちり取るようにしている。説明だけして意見をいただく時間がないということがないように、それぞれの項目で、ご説明する時間と意見交換する時間をだいたい半分か、もしくは6対4ぐらいには設定して取るように意識している。それ以外の議題をもっとゆっくり余裕を取って、その他の時間に意見を取っていく時間があつたらどうか、というようなご質問の趣旨であつたかと思う。そのようなものになれば良いと、実際に意識しているし、座長、副座長とも今後考えていきたいと思う。市からお伝えしたいことが多々ある状況なので、その状況も見ながら、皆様で話し合っただけの時間も取れるように最大限考慮し、座長、副座長ともお話ししていきたい。

- ウ 市民協働推進課のおっしゃることは重要なことだと思う。市が設定したテーマや選んだ各部署の報告も大事だと思うけれども、まちづくり協議会の皆さんが、今の宝塚市もしくは、それぞれの地域のどういったことについて対応していったら良いのか、どういったことを話し合っただけで良かったかというテーマ設定で、しっかり話し合っただけ、そのような形でやっていこうという会があっても良いのではないかな。今は市からの報告会や市のテーマに基づいたことを行っており、今日は盛りだくさんすぎて、どれだけ処理できるのかと私自身思っている。そうではなく、各地域によってテーマはそれぞれあると思うが、やはりこの宝塚市を良くしていこうという我々が発信のテーマを設定する機会が

あってもいいと思う。

- エ 今日も議題の時間配分的にぴったり予定を組まれていたが、来月のまちづくり協議会代表者交流会はお休みなので、9月にまた議事が非常に多い気がしないでもないが、今出ている中で、単なる市の報告は報告として済ませる部分と、話さなければならない部分とを少し精査していただき、効率よくまた中身のあるような形でお願いしたい。そのようなつもりで取り組んでいきたいと思う。

14. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の予定について周知があった。